

展覧会情報

この夏以降開催される地図・地理・歴史に関する展覧会・展示会等についてお知らせします。

■昭和はじめの「地図」の旅(前期・横浜発東・北日本行き／後期・横浜発西・南日本行き)

会場：横浜都市発展記念館

電話045-663-2424

会期：前期

2006年4月29日～6月25日

後期：6月30日～8月27日



■郡内村絵図展

絵図に見る村の暮らし

会場：ミュージアム都留

電話0554-45-8008

会期：2006年4月29日～6月25日

■ミニ企画展 絵図に見る大津百町今昔

会場：大津市歴史博物館

電話077-521-2100

会期：2006年6月6日～7月23日

■地図で見る日本海文化と佐渡

会場：佐渡博物館

電話0259-52-2447

会期：2006年6月10日～6月20日

(6月17日～18日は「第40回日本国際地図学会地方大会(佐渡市)」が開催中)

■吉田初三郎と八戸

会場：八戸市博物館

電話0178-44-8111

会期：2006年7月15日～8月20日

■空から眺める「鳥瞰図」の世界

会場：神戸市立博物館

電話078-391-0035

会期：2006年7月22日～9月3日

■絵図から見る峯山城下町

会場：京丹後市立丹後古代の里資料館

電話0772-75-2431

会期：2006年8月2日～10月15日

平成17年度 第2回巡検

平成17年度第2回見学会(巡検)は、年度を越した平成18年4月15日(土)に開催されました。



晴天で、風が強く寒い一日でしたが春の遠足気分です。まず、新装なった「江ノ島水族館」を見学。クラゲで有名だった旧水族館を引き継ぎ、あのエチゼンクラゲを始め多くのクラゲを飼育しています。イルカショーなどを見学して一路江ノ島に。江ノ島は旧植物園がエムエル・コッキング園となり、灯台の江ノ島展望塔も新しくなるなど、大きく変貌していました。島内の稚児ヶ淵・江島神社など散策し解散となりました。

平成18年度巡検(見学会)の予定

平成18年度は、秋以降に「城下町小田原」、「軍港横須賀」(いずれも仮称)の2回を予定。

詳細は、次号以降のICICニュースでご連絡します。ふるってご参加下さい。

地図絡み

第25回 中国のローカル線各駅列車で

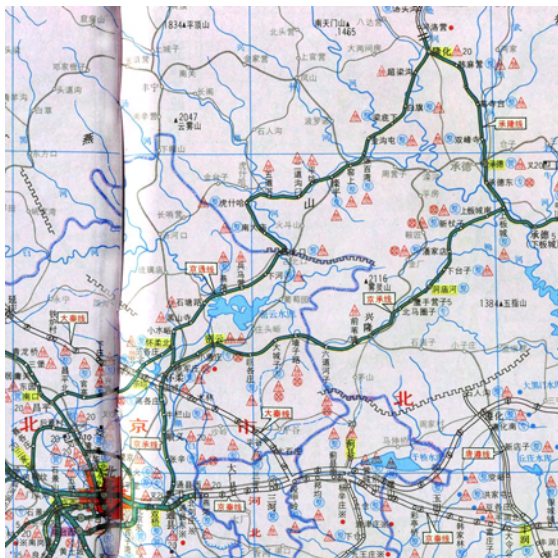
井口悦男(帝京大学講師)

例えば井の頭線の始発駅渋谷で、混雑時に乗り合わせるたびに、くり返えされるのは、発車ベルが響く頃一段と車内に人が駆け込むことである。そのような折、電車の入口真向こうの閉じたドア近くにいたりすると、その圧力の対抗上、ドア上の僅かな出っばりに手をあてることとなる。

そして、発車して自分の位置が安定するとドア上にあげていた手を戻し、指先に埃も泥も付いていないことに気付くとともに、中国での反対のことが、よみがえる。それは、ローカル線の各停列車で、網棚から下ろした荷物が埃まみれとなっていたことである。

清朝夏季離宮の承德(熱河)の「避暑山莊」へ、北京から出掛けた折、ゆきは観光用(旅游)のノンストップ特急「山莊号」の窓内にレース、座席はすっぽりカバーで蔽われたグリーン(軟座)車でヨーロッパ系観光客と一緒にあったが、かえりには、往きの京承線と平行する京通線の各停列車に乗継いで戻ったときであった。こちらは観光客と縁のない路線である。

承德から地方ローカル線の赤峰行(13時25分発)で1時間ほど、きびきびした女性列車長の若者たちに触れる姿に、近頃の日本で失われた威厳を感じたりして隆化で乗換え、ここで折返えす北京北行(14時56分発)の人となった。各駅の停車時間が短い「快客」の各停列車で普通車(硬座)だけの編成であった。ゆきの観光用車両の赤白塗りわけにオレンジ帯のものよ



京承線、承隆線、京通線

鉄道路線図を各鉄路局毎にまとめた一冊。ロシアにもあることからその影響か、日本でこの種の市販は見られない。「中国鉄路交通地図冊」中国地図出版社・中国鉄道出版社 198P 1998 第1版 P49～50 北京鉄路分局分による。



車内唯一の吊り下げ広告 危険品など持ち込み禁止の横断幕「嚴禁將 易燃 易爆 危險品 帶上車」冬場の野外での被害が深刻であることを物語る。東京でもこのような注意書きは見られるが、禁煙札と並んでいても一向に目立たない。98.11.15 筆者写

り、一時代前のステンレス波板に濃緑、黄帯の旧共産圏共通塗装車ばかりであった。室内は蛍光灯で、網棚はステンレス網棒組合せという、一応近代化されているが、座席のふとんも背板も皆ビニール張りなのは今では何とも味気ない。床のリノリウムも実用的な暗い無地である。

各車毎に配置された乗務員が車内清掃を担当し、こまめに箒を動かす。しかし、食べかすを床に気軽に捨てる習慣が、なお改まらず、イタチゴッコに近い。日本でも、白服の掃除専用員が巡回していた時期があった。日本と大きく違うのは、終点が近づくと、各車の乗務員がモップによる床の水拭きのはじまる所である。箒掃除より徹底させるため、「足をあげる」と号令されるので、一瞬びっくりする。慣れると、はじまったと思う。それにしても汚れた窓、小テーブル、手すり、網棚などが担当しているのだろうか。あるいは製造配属されて以来、掃除項目にない所が残されたままとも考えられる。

この列車は夜の10時近くに北京北駅(21時42分)に着くが、食堂車(餐車)など縁のない列車だけに心配していると、時分に発泡スチロールに盛込まれたポロポロの暖かい白飯脇に魚肉ソーセージと野菜いためとをあしらった3元(約40円ほど)の簡易弁当が女性販売員とともに車内に出現した。

列車は古北口で長城を越し、閻の河北平原に下った。(06.05.20)

ICICニュース Vol.11 No.1通巻37号

発行年月日:2006年(平成18年)6月1日

編集・発行:財団法人 地図情報センター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5

神保町センター5階

Tel.03-3262-1486 Fax.03-3234-0872

<http://www.soc.nii.ac.jp/icic/>
E-mail icic_map@yahoo.co.jp